

**[成果情報名] 収穫開始時期が早く、果実揃いが良いイチゴの新品種「ならあかり」**

**[要約]**促成栽培用のイチゴ新品種「ならあかり」は、花芽分化期が9月上旬と早い。総収量は「アスカルビー」、「古都華」と同程度であるが、年内収量は「古都華」より多い。収穫期間を通して果実揃いが良く、糖度は「古都華」と同程度かやや低い。

**[キーワード]**イチゴ、品種、促成栽培、花芽分化、果実揃い

**[担当]**研究開発部育種科

**[代表連絡先]**電話 0744-47-4491

**[研究所名]**奈良県農業研究開発センター

**[分類]**研究成果情報

**[背景・ねらい]**

近年、一季成り性品種の花芽分化期の気温が高い傾向にあり、花芽分化の遅れに伴って収穫開始時期が遅れ、年内収量が少ない年次がある。一方、ケーキ店、高級果実店、外食店等との直接取引が盛んになっており、中でもクリスマス需要にあわせ、食味が優れ、果形と果実揃いが良い品種の安定供給が求められている。そこで、収穫開始時期が早く、食味と果実揃いが良い品種を育成する。

**[成果の内容・特徴]**

1. 「ならあかり」は奈良県農業研究開発センター育成の系統 23-1-33 を種子親、系統 24-5-C を花粉親として 2014 年に交配した実生から選抜、育成した品種である。系統 23-1-33 は「古都華」を種子親、「とちおとめ」を花粉親とする系統で、系統 24-5-C は「古都華」を種子親、「かおり野」を花粉親とする系統である。
2. 果形は円錐形であり、果皮は光沢のある赤色で、果肉は淡紅色である（図 1）。
3. 花芽分化期は9月上旬で「アスカルビー」、「古都華」よりも早く（表 1）、収穫開始時期も 11 月下旬で「アスカルビー」、「古都華」より早い（表 2）。
4. 総収量は「アスカルビー」、「古都華」と同程度であるが、年内収量は安定しており、「古都華」より多い（表 2）。
5. 平均果重は「古都華」より小さく、「アスカルビー」と同程度かやや小さい。正常果率は「古都華」と同程度に高く、果実揃いは「古都華」、「アスカルビー」より良い（表 2）。
6. 糖度は「アスカルビー」より高く、「古都華」と同程度かやや低い（図 2）。酸度は「アスカルビー」、「古都華」と同程度かやや低い。硬度は「アスカルビー」より高く、「古都華」と同程度である。

**[成果の活用面・留意点]**

1. 年内収量が安定し、果実揃いが良いことから業務需要に対応できる品種である。
2. 萎黄病、うどんこ病および炭疽病のいずれに対しても罹病性である。
3. 種苗の利用は奈良県内に限る。

**[具体的データ]**

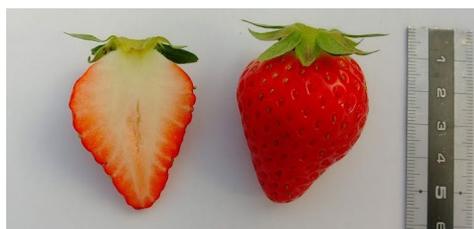


図 1 「ならあかり」の果実

表1 「ならあかり」のポット苗における花芽分化程度<sup>2</sup> (2017年)

品種	9月5日	9月12日	9月19日	9月26日
ならあかり	××××△△△△	××○○○○○○	◎◎◎●●●●●	◎◎◎●●●●●
	△○○○○○○	◎◎◎◎◎◎◎◎	●●●●●●●●	●●●●●●●●
	○○◎◎◎◎◎◎	◎◎◎◎◎◎◎●	●●●●●●●●	●●●●●●●●
アスカルビー	××××××××	××××××××	△△○○○○○○	◎◎◎◎◎◎◎◎
	××××××××	×××××△△△	◎◎◎◎◎◎◎◎	●●●●●●●●
	××××××××	△○○○○◎◎◎	◎◎◎◎◎◎◎●	●●●●●●●●
古都華	××××××××	×××△△△△△	△△△○○○○○	○○◎◎◎◎◎◎
	××××××××	△△○○○○○○	○○○○○○◎◎	◎◎◎◎◎◎◎◎
	××××××××	○○◎◎◎◎◎◎	◎◎◎◎◎◎◎◎	◎◎◎◎●●●●

各品種24株ずつを調査

<sup>2</sup>花芽分化程度 ×：未分化、△：分化初期、○：分化期、◎：果房形成期、●：萼片形成期以降

表2 「ならあかり」の促成栽培(高設栽培)における月別果実収穫量

年次	品種	収穫開始日	収穫重量 (g/株)							計	平均果重 (g)	正常果率 <sup>2</sup> (%)	果実揃い <sup>3</sup>
			11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月				
2018	ならあかり	11月26日	5	123	92	171	153	95	= <sup>4</sup>	639	17.8	77.0	34.7
	アスカルビー	11月26日	6	144	119	174	151	64	=	658	19.3	74.3	43.1
	古都華	12月12日	-	111	77	176	159	106	=	629	23.1	87.9	39.3
2019	ならあかり	11月25日	8	81	107	118	158	107	103	682	17.8	97.2	31.5
	アスカルビー	12月6日	- <sup>5</sup>	13	115	101	127	138	133	626	17.5	82.3	42.2
	古都華	12月6日	-	43	119	123	124	84	91	585	20.2	95.8	37.6
2020	ならあかり	11月25日	6	108	89	146	258	137	145	889	19.9	97.8	24.7
	アスカルビー	12月7日	-	97	110	174	236	175	158	949	20.6	78.8	39.5
	古都華	12月7日	-	88	104	168	258	108	133	860	24.0	92.9	26.6

n=4, ただし2018年のみn=8

総収量は、tukey法による検定 (5%水準) で有意差なし

<sup>2</sup>変形を伴う授精不良果を除く果実の重量割合 <sup>3</sup>収穫日ごとの平均果重 (正常果、乱形果および不受精果) の変動係数

<sup>4</sup>収穫がなかったことを示す

<sup>5</sup>調査しなかったことを示す

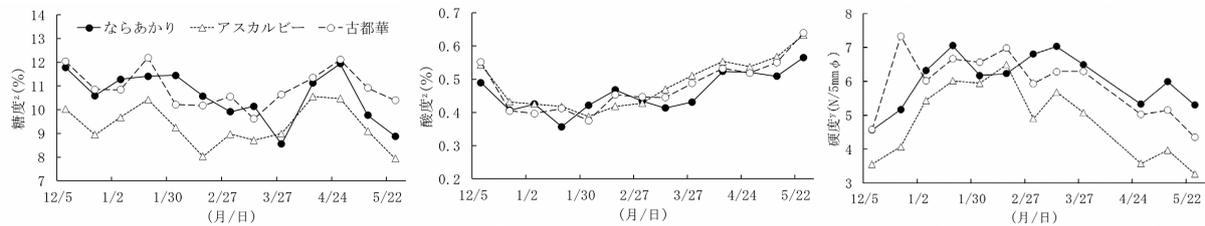


図2 促成栽培における「ならあかり」の糖度・酸度・硬度の推移(2020年～2021年)

<sup>2</sup>糖度と酸度は1果をまるごと潰して得られた搾汁液をポケット糖酸度計((株)アタゴ、PAL-BX ACID4)を用いて測定(n=9)

<sup>3</sup>硬度は直径5mmの円筒形プランジャーを装着したデジタルフォースケージ((株)イマダ)を用いて、果実中央部を測定(n=9)

(矢奥泰章、西本登志、東井君枝)

[その他]

予算区分：県単

研究期間：2014～2021年度

研究担当者：矢奥泰章、東井君枝、西本登志、安川人央、厚見治之、皆巳大輔、根本明季、嶋岡龍平、堀川大輔、宍戸拓樹、佐野太郎

発表論文等：矢奥ら「ならあかり」品種登録出願第35648号(2021年12月28日)